

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」 第2回推進会議の概要について

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」の第2回推進会議を平成24年10月5日（金）に開催しました。

第2回推進会議には、7名の全委員にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして特定非営利活動法人Mブリッジ理事長の米山 哲司氏にご出席いただきました。

なお、第2回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

川北 輝（特定非営利活動法人津市 NPO
サポートセンター理事長）

小堀 正一（三重県視覚障害者協会会員）

高橋 幸照（水土里ネット立梅用水事務局長）

増田 正人（公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター専務理事）

舛本 大輔（国立大学法人三重大学大学院教育学研究科特別支援教育専攻2年）

宮本 倫明（「美し国おこし・三重」総合プロデューサー）

和田 京子（特定非営利活動法人伊賀の伝丸代表理事）

＜ファシリテーター＞

米山 哲司（特定非営利活動法人Mブリッジ理事長）

＜推進会議の進行概要＞

進行は以下のとおり会議の大まかな

開会 9:30

戦略企画部長あいさつ

委員等の自己紹介

各実践取組ごとの実績及び課題について

- ・ プロジェクトの進捗状況等の説明
- ・ 委員と関係課に分かれて事業の最大の成果及び課題について意見交換を行い、委員から発表
- ・ 委員間で意見交換

閉会 12:00

（戦略企画部長あいさつ）

山口和夫 戦略企画部長から、今回の会議では、事業の実績と課題について委員からご意見をいただき、24年度後半の事業及び25年度の事業に活かしていきたい旨あいさつをしました。

（委員の自己紹介）

全委員及びファシリテーターが揃う初めての会議であるため、委員及びファシリテーターから自己紹介いただきました。

（プロジェクトの進捗状況についての意見交換）

事務局からプロジェクトの各事業の実績及び課題を説明しました。

その後、委員と関係課が7つに分かれて進捗状況、成果、課題について意見交換を行い、各委員から各事業の一番の成果と一番の課題について発表がありました。

【実践取組1】「次代を担う子ども・若者の県民力を高める仕組みづくり」

1 高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり

成果：具体的な活動を通して大学、学生、地域の意見を把握できた。

課題：学生が求めている情報や学生が動き出すための情報をどういうふうに届けていくか。

2 子どもたちと取り組む農村の地域資源保全活動

成果：あじさい祭りを発端に子どもたちに地域資源を知ってもらえた。集落の人との活動に子どもが入ることによって活性化につながる。また、16年続けてきて地域の景観形成につながった。集落には、老いも若きも入ってこそ農村協働力につながる。

課題：学校教育との連携については、やや中だるみの状態である。質的な向上が課題である。

3 若者が参画する犯罪に強いまちづくり

成果：非行少年の孤立化を防止するため、大学生ボランティア等と連携して「少年の居場所づくり」を実施し、少年の立直り支援に取り組んだ。

また、学生を対象に「生命の大切さを学ぶ教室」を開催し、受講生へのアンケートで98%が「受講して良かった」旨回答があった。

課題：大学生ボランティアの意識に温度差があり、ボランティアの裾野を拡大していくことが課題。

また、「命の大切さを学ぶ教室」を通じ、被害者支援の重要性と併せて、犯罪被害の悲惨さを理解することにより、規範意識の向上を図り、非行防止につなげていくこと。

【実践取組2】「さまざまな事情で支援が必要な県民の皆さんの能力発揮・参画の支援」

1 外国人住民の地域社会への参画の促進

成果：外国人住民が参画する機会が増加

課題：コーディネートできる中間的な組織、人材の不足。専門的な知識も必要である。

2 障がい者等の地域社会への参画の促進

成果：思いやり駐車場制度の開始。

課題：思いやり駐車場制度は、啓発が課題。

芸術は、作品で評価されるべきで、障がい者自身の意識改革や障がい者が率先して参加できるようなセミナーの開催などの取組が必要。

【実践取組3】「『美し国おこし・三重』の新たな展開」

成果：地域ごとやテーマごとの拡大座談会が自発的に開催されるようになってきた。

また、「擬革紙」の復活による製品開発や

二人で足腰の弱い人を運べる避難用の「かけモック」の製作など新しい経済活動の芽がでてきた。

課題：協創による自立・持続可能で元気な地域づくりという「美し国おこし・三重」の事業の本質を伝えること。

「美し国おこし・三重」は、平成 26 年度で終了するため、いかに成果を地域に残していくかが重要。

【実践取組 4】「NPO の活動を支える仕組みづくり」

成果：県の円卓会議、地域の円卓会議などにおいて、行政、企業、地域、団体など多様な主体との協議が出来たこと。

課題：中間支援組織の県全域での情報などの共有が出来ていないこと



（プロジェクト推進に向けた意見交換）

各委員からの発表を踏まえ、委員間で意見交換を行いました。

委員からの主な意見

アクティブ・シチズンとして活動したいと思っている人はいるので、それらの人を発掘することが重要。

地域活動に参画する人材の発掘、育成のためには、NPO、地域活動団体、住民、企業学生、行政等さまざま主体をつなぐ役割を担う中間的な組織、人材が必要であるとともに、増やしていく必要がある。

ボランティアも必要であるが、一定の知識を持った人が行動する、そういう人たちが増えるということが求められている。そういう意味では、ユニバーサルデザインアドバイザー養成講座など地域や社会活動に参画するきっかけづくりとなる研修などを県が行うことは良いことだと思う。

いかに地域や社会の活動に参画してもらうかが課題であり、場をどう作り、つなげていくかを考えていく必要がある。

目標を持ち、自分が提供できること、困っていることを素直に話せる関係を持っている人、グループは、問題解決のスピードが早い。

何事でも主体性がないと継続しない。

住民の頑張りを支える行政であって欲しい。



次回（第3回）の開催予定

次回（第3回）推進会議は、12月中旬から12月下旬頃に公開で開催する予定です。